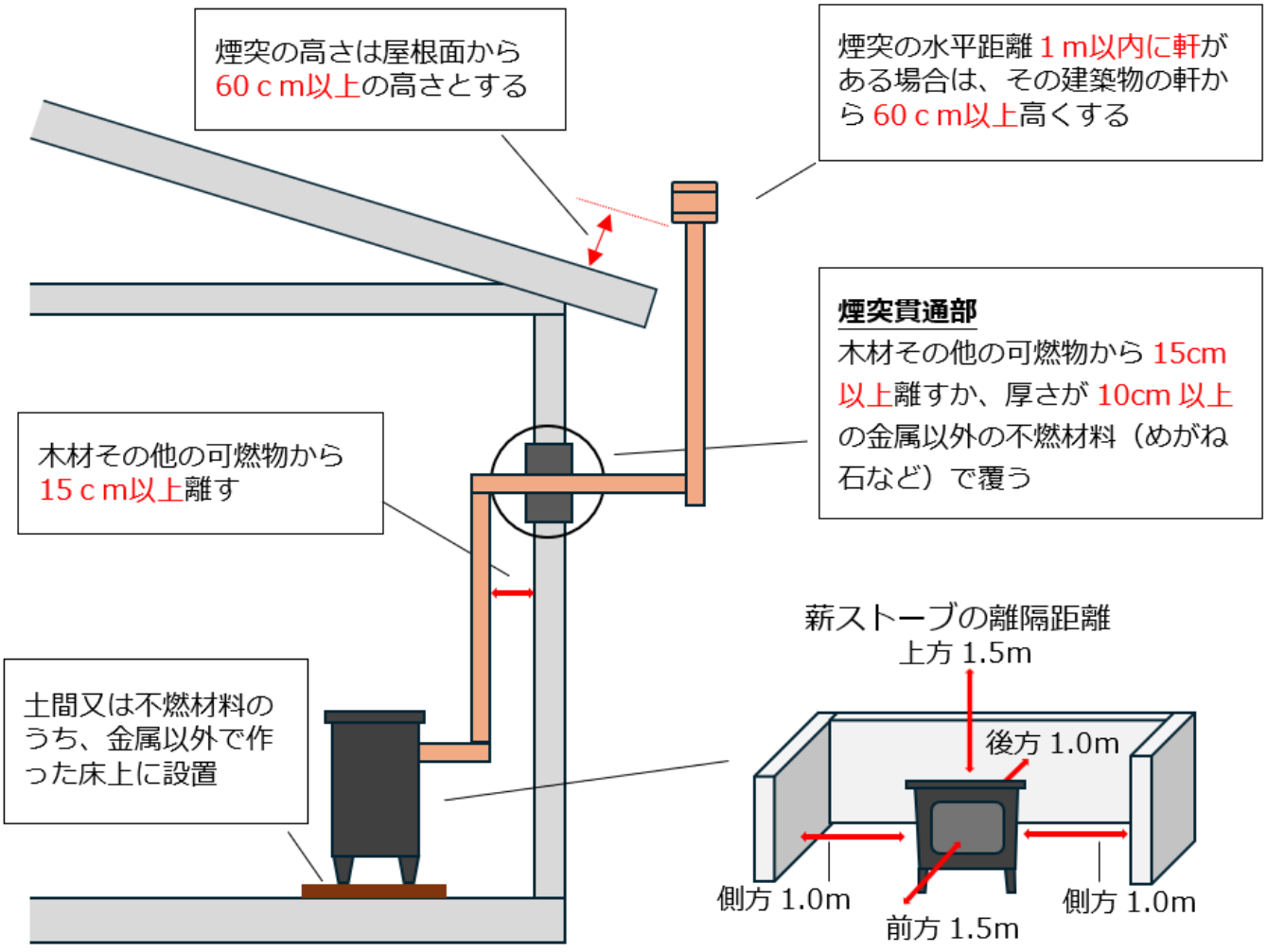
まきストーブを安全に使用しましょう！

毎年、まきストーブを原因とする火災が発生しています。安全に使用するため設置状況や使用時の注意事項を確認しましょう。

設置状況をチェック

- ☑ ストーブ本体から周囲の可燃物まで適正な距離がとられているか
- ☑ 煙突の貫通部は、適切に施行されているか
- ☑ 煙突の高さは適正か（軒が近くにある場合も注意が必要です）
- ☑ 煙突と煙突のつなぎ目が外れていないか



※ストーブの周りを特定不燃材料（れんが等）で囲んだ場合、離隔距離を縮めることができます

使用時の注意事項

☑　ストーブの周りに燃えやすいものを置かない

☑　不燃材料のたき殻受け（受け皿）を設置し、火種が落ちた場合可燃物に触れないようにしましょう

☑　たき殻や灰を正しく処理しましょう
（蓋のある不燃性の取灰入れに入れ、不燃材料の台等の上に置く）

☑　こまめに煙突内を掃除してタールを除去し、煙道火災を防ぎましょう

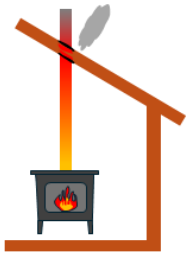
【火災発生原因】

■低温炭化



木材は 100℃程度の低温であっても長時間熱にさらされると炭化し、熱を蓄積して発火することがあります。ストーブと木材の壁の距離が近い場合、発生危険が高まります。また、煙突の腐食部に開いた穴、隙間及び外れが生じた状態で使用した場合にも、高温の煙が漏れるため注意が必要です。

■煙道火災



煙突の掃除をしなかったことでタールが溜まり、ストーブを過熱したときに煙道内部で火災が起きることがあります。その際、煙道内部は 1,000℃を超えることもあり、煙突周囲に木材などの可燃物があると燃える恐れがあります。

関連リンク

木質バイオマスストーブ環境ガイドブック：環境省
（薪・ペレットストーブの環境にやさしい使い方）